

仁淀川の環境保全を支援

アサヒビールが「四国の水・森に感謝」キャンペーン収益を寄付

2月22日、高知県庁でアサヒビール株式会社『うまい！を明日へ！』プロジェクト～「四国の水・森に感謝」～第7弾の寄付贈呈式が行われ、同社高知支社の小山支社長から仁淀川流域7市町村（高知市・土佐市・いの町・日高村・佐川町・越知町・仁淀川町）で構成する「仁淀川流域交流会議」に寄付金目録が手渡されました。

また、贈呈式に引き続き協定締結式が行われ、協定期間を平成26年2月24日までとする協定が締結されました。

このキャンペーンは、対象商品の売り上げの一部（ビール1本につき1円）を環境保全活動に取り組む団体に寄付するというアサヒビールの社会貢献活動の一環です。

高知支社でも、このプロジェクトの推進だけでなく、ボランティア活動に社員が積極的に参加するなど地域に密着した活動を継続的に展開しています。

「仁淀川流域交流会議」では、これまで行ってきた河川清掃活動や間伐、広葉樹の植樹、清流保全関連イベントなど自然環境の保全・再生に関する活動を、この寄付金を活用してさらに充実・拡大していく予定です。



写真 左から 高知県 岩城副知事
仁淀川流域交流会議 山崎(いの町)総務課長
アサヒビール株式会社四国地区 板倉本部長
アサヒビール株式会社高知支社 小山支社長

仁淀川シンポジウム開催報告

2月4日に、仁淀川清流保全推進協議会と高知県の主催で「仁淀川シンポジウム」が、すこやかセンター伊野で開催され、約170名の参加がありました。

最初に、デザイナーの梅原真さんから「リバーはライバル～仁淀川 vs 四万十川」と題して、自身が手掛けた四万十川などでの事例を踏まえて、仁淀川流域の魅力の発信方法について基調講演がありました。

続くポスターセッションでは、仁淀川流域の保全や振興の取り組みについて5名の方から発表があり、その発表に対して会場との熱心な意見交換が行われました。

最後のパネルディスカッションでは、梅原さんにもパネリストとして参加いただき、仁淀川の清流を守っていくための取り組みや川との関わりについて、各パネリスト自身の川体験を踏まえて熱く語り合っていました。

また会場のロビーでは、NHK提供による仁淀川の美しい写真パネルの展示や流域の特産品やパンフレットなどの展示があり、参加者は熱心に見ていました。



伊野公民館が7月から使用できなくなります

伊野公民館を新本庁舎建設に伴う仮庁舎として使用するため、7月から公民館の会議室などが使用できなくなります。

そのため、従来伊野公民館の使用料を免除されて活動されている方には代替施設を斡旋することとしていますので、伊野公民館にある代替施設使用申請書の提出をお願いします。